

香川県教育施策推進協議会第1回会議における主な意見

1 開催日時等

- (1) 開催日時 令和6年12月20日(金) 13:30～15:30
(2) 場 所 香川県社会福祉総合センター7階大会議室

2 議題

次期香川県教育基本計画について

- (1) 香川県教育委員会のこれまでの取り組み
(2) 本県の教育をめぐる現状と課題について
(3) 次期香川県教育基本計画策定に係る今後のスケジュール

3 出席委員

| | | |
|-----|-------|--|
| 会 長 | 平 篤志 | 香川大学教育学部長 |
| 委 員 | 青井 静 | 香川県社会教育委員・家庭教育推進専門員 香川県子ども読書活動推進会議委員 |
| | 岡田有里加 | 香川県ユニセフ協会事務局長 |
| | 岡本 幸江 | 日本放送協会高松放送局長 |
| | 片山 昭彦 | 四国学院大学社会学部長 |
| | 工藤 りか | 株式会社四国総合研究所電子アグリ技術部副部長 (研究主幹) 兼アグリバイオグループ グループ長 |
| | 小柳 和代 | 香川県市町教育委員会連絡協議会教育長部会長 (高松市教育委員会教育長) |
| | 西藤 翼 | 株式会社 Soilook 代表取締役 |
| | 堺 るり子 | 香川県立香川東部支援学校、香川県立高松支援学校 学校評議員(元香川県立香川丸亀養護学校校長) |
| | 寒川 千春 | 香川県PTA連絡協議会 母親代表委員長 |
| | 杉本 勝利 | 香川県高等学校PTA連合会 会長 |
| | 田中 敬子 | 観音寺市立豊浜小学校 学校運営協議会委員 |
| | 松浦 由紀 | 株式会社四国新聞社編集局地方部長 |
| | 港 育広 | 香川県町教育長会会長 (土庄町教育委員会教育長) |

4 主な意見等

(1) 指標について

- 評価の結果が主にAかDかであり、年々評価が下がっている項目もある。計画期間の中間段階でどのような取り組みの見直しが行われているのか。
- 毎年同じ質問をして、それがどう変化するかの評価も必要だと思う。例えば、体力づくりについては、文科省が毎年評価をしており、どう変化したのかが分かる。読書のことや心の中は、評価項目が毎年変わると変化が分かりづらいのではないかと思う。
- もう少し細やかな評価ができないかと思う。学校ごとに力を入れているところや特色を打ち出そうとしているところがあり、そういう努力も現場はしている。
どうしても画一的な質問になってしまうが、結果的にDになると、先生たちがもう少し頑張らないといけないという負担も増えてくる。評価項目について、きめ細やかな質問の仕方や結果の出し方、公表の仕方を検討していく必要があると思う。
- 「学力の育成」や「体の育成」などの指標は、とても腑に落ちる部分が多かったが、「心の育成」については、道徳教育の充実や豊かな感性、情操の育成というものが果たしてこの指標で図れるものなのかと思った。心の豊かさそのものを定義することが難しいということもあると思うが、指標の設問と狙いがダイレクトではないと感じる。

(2) 学校における働き方改革について

- 先生方に新しいことをしていただく際に、KPIとして、その工数と時間を作るために整理した業務の数を設定できるのではないか。
- 全面的に賛成であるが、その中身については考える必要があると思う。事務的な面で業務が簡略化されるのは賛成だが、授業時間数や子どもと向き合う時間が減るのではないかという懸念がある。
- 働き方改革に今一番欠けているところは、おそらく職員室の環境づくりであると思っていて、スクールカウンセラーやスクールロイヤーなど、外部の専門家が学校に入ってくる際に、学校の中でどのように働いてもらいたいのか、どのように関わってもらいたいのかを説明することに非常に時間がかかる。そのため、心構え等について事前の研修を検討いただきたい。
- 子どもは非常に多様化しており、それぞれの子どもの権利を求められている中で、先生方は教育基本計画の遂行に向け、切磋琢磨されていると思うが、一方で先生方の働き方改革も求められているということで、相反するように感じる。

(3) 学校、家庭、地域の連携について

- 子どもを持つ若い世代の親は仕事で遅くなることが多いと思うので、子どもを預ける時間が活用できればと思う。セキュリティの課題があると思うが、例えば、学校の空き教室で、外部の人を呼んで何かやれることがあるのではないか。
- 先生が全ての専門性を持つことが困難だからこそ、外部とつながるとか、あるいは外部の方が学校の中に参画してくるなど、先生以外の方による教育の場が考えられるが、そういう取り組みはあるのか。
- 先生だけでは地域とのつながりが持ちにくい時に、PTAがかけ橋になって適任な人を紹介するなど、PTAは大事な存在だと思っている。PTAに参加する保護者が少なくなっている点について、県はどのような対策を考えているか。

(4) 特別支援教育について

- 『通常の学級に在籍する、障害のある児童生徒などのうち、特別な支援を必要とする児童生徒の中で、「個別の指導計画」が作成されている割合』は中学校で令和2年度は11.0%、令和5年度は15.3%に留まっている。

受け皿がないところに特別な支援を必要とする子どもを置くことは、当事者の子ども、受け入れる先生、教室内の他の子どもたちの誰も幸せにしないと思っている。できれば、新しい仕組みづくりや指標を立てることができればいいと思っている。

- 特別支援学級の生徒数が非常に増加しており、多様化する子どもたちの交流が求められてきていると思われるが、子ども一人一人の権利を実現するためにはとても大切なことだと思う。

(5) 体力・運動能力について

- 握力が低いということについて、最近は学校で雑巾絞りをしていないなと感じる。学校の清掃を業者に任せている学校もあると聞いているが、自分の学校は自分で綺麗にするというような、そういった日々の動きから子どもたちの体力づくりができると思っている。

(6) 食育の推進について

- 学校における食育は非常に良い機会であると思っており、この食べ物はどのように作られているのだろうか、この材料はどのように育てられているのだろうかということを、もう少し深掘りして教育につなげていけば、子どもたちの関心も広がっていくと思う。そこから理科教育にもつながっていくだろうし、理科がさらに科学技術というところにも発展していくのではないかと思う。科学技術の研究者の育成は重要な課題であり、食育という機会を通じて、将来の科学技術に対する関心のある人材の育成につなげていってもらいたい。

(7) 郷土を愛し、郷土を支える人材の育成について

- 教員の研修などで地元の歴史や食文化をインプットするような場はあるか。

(8) 校務DXについて

- 紙の出席簿が残っており、デジタルと紙の両方に記録するなど、重複する業務があると聞いている。どのように改善を考えているか。

(9) ICTの活用について

- 小学校6年生、中学校3年生を対象とした1人1台端末の授業での活用率の調査で、全国の小・中学校では活用率に大きな差はないが、本県では小・中学校で活用率に差がある。中学校の活用について、現状を教えてください。
- インフラ整備のための予算をぜひ確保してもらいたい。私の勤務校でも、通信環境の問題で使えないという現状もある。

5 その他

- 会議の公開・非公開
審議会等の会議の公開に関する指針を踏まえ、原則公開とし、指針の3に該当する議題があれば、協議会に諮った上で非公開とする。